

「仮名書き絵入り往生要集」(浄土信仰)



*教科書文庫 安政30「往生要集 中 六道物語」。「六道物語」のうち「餓鬼道」の場面です。生前の所業の報いに応じ、餓鬼道に落ちた亡者の姿が様々に描かれています。



*教科書文庫 安政31「往生要集 下 極楽物語」。聖衆来迎図です。臨終に際し、阿弥陀如来を中心に沢山の仏が迎えに来て、極楽浄土へ導く場面です。

解説

10世紀半ば、末法思想の流行を背景にして、現世で阿弥陀仏を念じることにより来世において極楽浄土に往生できるという浄土信仰が広まりました。

比叡山で学んだ源信は、「往生要集」の中で、多くの経文をひきながら、念仏による極楽往生の方法を人びとに説き、浄土信仰を広めました。

以後、「往生要集」は人々を教化するのに用いられ、江戸時代には便利な絵巻が作られました。さらに、仮名書きで挿絵の「仮名書き絵入り往生要集」も刊行されました。

「仮名書き絵入り往生要集」(写真)は、「往生要集」巻上のうち第1「厭離穢土(おんりえど)」と第2「欣求浄土(ごんぐじょうど)」を、上巻「地獄物語」・中巻「六道物語」・下巻「極楽物語」の3巻にして収録しています。当館では中巻と下巻を所蔵しています。

「往生要集」は、人びとに地獄の恐ろしさを植え付けるとともに、極楽往生へのあこがれを強烈に抱かせました。こうして、人びとの来世のイメージが形作られていきました。